

平成30年度事業計画

公益財団法人 三菱経済研究所

平成30年度は、同年3月末に解散する公益財団法人清明会が行っていた助成事業の理念を引き継ぎ、経済基礎研究及び経済史研究の分野の体制を拡充する。

1. 経済研究部門

(1) 内外経済・産業情勢の現状と展望に関する分析

内外経済・産業情勢の現状と展望に関するタイムリーかつ的確な分析を行い、その成果を月刊誌「経済の進路」、英文誌「Monthly Circular」に反映させると共に、適宜誌面を見直すことで、一層の内容充実を期す。

(2) 経済の基礎研究を通じた学術分野への貢献

経済学の先端領域を中心に、理論、実証、政策各分野における研究テーマの発掘に努めると共に、それらの問題意識を生かして様々な先進的研究に注力、上記清明会の理念を受け継いで研究体制を拡充のうえ、その成果を基礎研究書として広く社会に還元する。

2. 史料館史料部門

(1) 三菱関係史料の収集、整理、保存、及び閲覧の供与

三菱グループ各社他からの史料を収集し、史料の整理と書誌データの充実を図り、適正な環境下で保存することで貴重な史料の散逸や棄損を防ぐと共に、所蔵史料の閲覧を供与し、広く研究に役立てる。

また、史料管理システムの安定的な運用を可能とする新システムへの移行を行い、利便性の向上を図るとともに、史料の保存と活用のための持続的なデジタル化促進策を検討する。

(2) 所蔵史料を活用した調査、研究、及び成果の発表

三菱、及び日本の産業発展史の調査、研究体制を更に拡充し、その成果を「三菱史料館論集」（平成31年3月第20号）として発表する他、関連刊行物の整備なども進めることで、学術振興を図る。

(3) 三菱史料館の運営

所蔵史料の収集や、調査、研究などの成果を採り入れながら、史料館展示室の充実や解説書の作成整備、見学会や研修の実施などを通じて、三菱史料館の幅広い利用に資する運営を行う。

以上